

特集

一步を踏み出した若者たち

～ つながりの種をまく ～



ふるさと「三豊」が大好き！
だから、何かを始めたい！地域
を盛り上げようと、市内の若者たち
が、それぞれのオリジナリティを生か
しながら、みんなでつながり、行動を起
し始めています。

今月は地域活性化の種をまく若者にスポ
ットをあて、市内で広がる「つながり」を
紹介し、みとよの未来を見つめていきます。

表紙

今月の市民力

三豊市商工会青年部は40歳までの市内の事
業者の後継者が従業員が加入し、商工業や地
域振興を進めています。婚活応援隊みとよカ
ップリングパーティー「まち恋」は、青年部
の中でも若い会員が取り組んでいます。平成
21年度から年2回行い、25年度で5年目を
迎え、イベントの内容にも、さらなる磨きが
かかってきました。



三豊市の人口 ※平成26年1月1日現在 ()内は前月比
世帯数 23,187 世帯(-21) 総人口 66,664 人(-97) 男 31,768 人(-60) 女 34,896 人(-37) ※香川県人口移動調査による

広報 **みとよ** 2月号
平成26年 **contents**

- 3 特集 一步を踏み出した若者たち ～つながりの種をまく～
- 12 平成26年成人式
- 13 **M's Information** みとよくらしのおしらせ①
市危機管理センター建設 / 法務大臣感謝状 / 人権擁護委員委嘱 /
水道料金の改定 / 市民対話集会 / 市の「花」と「木」募集 /
市営住宅
- 16 **みとよHOT** ほっとNEWS(ホットニュース)
- 18 **M's Information** みとよくらしのおしらせ②
がん検診 / 女性の健康週間行事 / 障がい者控除 / 国民年金 /
税務課からのお知らせ / 市奨学金貸付希望者募集
- 21 **M's** 深読みひろば
じんけん探訪 / 文化財
- 22 2月のお知らせ
募集 / 相談 / 講座・教室 / イベント / 納税のお知らせ /
マリウエーブ / 国際交流協会 など
- 25 保健・相談
- 26 **ここ笑い通信** ～子育てするなら三豊が一番！～
3歳児健診 / ウイズの会 / 不妊治療費助成 / 予防接種週間 /
M's Smile ふおとぎやらしい / 乳幼児健診
- 28 みとよ写真帳 / 編集後記

～市ホームページには情報が満載～
Mのみちしるべ <http://www.city.mitoyo.lg.jp/>
三豊市 検索

イベントカレンダー
リンク集
ピックアップ

トップページ左にあるリンク
集をクリックし、三豊市国際
交流協会をチェック！

公益財団法人三豊市国際交流協会
Mitoyo International Exchange Association

HOME
お知らせ
イベントカレンダー
講座のご案内
国際交流
協会の活動
協会の活動
協会の活動

世界とつながろう

外国の文化や言葉の魅力を学ぶきっかけが盛りだ
くさんの三豊市国際交流協会。ホームページでは、
講座案内のほか、これまで開催してきたさまざまな
イベントを写真付きで紹介しており、国際交流の楽
しさが画面から伝わってくるページになっています。
また、これから開催される講座やイベントの情報
もいち早く知ることが出来ます。
皆さんもホームページをのぞいて、世界とつなが
る一步を踏み出してみませんか。



まち恋バードがのった
まち恋特製のケーキ



受付の準備は細部まで気を配って

7組のカップル誕生 (第十章まち恋)

入念に準備を進めました

性が加入。今年度、第十章となる「まち恋」では、小さなことかも知れないけれど、女性目線から新たな第一歩を踏み出しました。

12月8日に行った「ひと足早いクリスマスパーティー♡」と題した「まち恋」では、特にムード作りの点で女性の意見を大切にしました。「私たちの意見で案内状の封筒やプロフィールを書く用紙などを結婚式の案内状のようにソフトな感じにしたんです。またお揃いのエプロンを付け、スタッ

平成20年、市商工会青年部は結婚を目的としない、カップルをつくるパーティーを初めて開催。これが今の「まち恋」の前身でした。第十章までに、約600人が参加し、70組がカップルとなりました。結婚に至ったかどうかは、報告義務がないので、分かりませんが着実に幸せの芽が出てきています。結婚の連絡をいただければ、記念品をお渡ししています。

婚活ブーム前から 実施

当時の部長から事務を引

まち恋

若者の出会いを
後押ししたい



「婚活」今ではよく聞く言葉です。婚活応援隊みとよカップリングパーティー「まち恋」は三豊市商工会青年部が特に力を入れているイベントです。また、青年部の活動以外のところでも地域活性化に頑張っている会員がいます。立ち上げの苦労を乗り越え、人のつながりの輪が広がっています。

き継ぐ時、婚活をしてほしいと言われた佐倉さん。奇しくも婚活ブームの1年前でした。

第一章の実行委員長となった佐倉さんは立ち上げの

初代実行委員長
佐倉自動車
佐倉 和豊さん(40)



フであることが分かるように工夫したり、みんなが話しやすいように、その場から姿を隠したりと雰囲気づくりに力を入れたんですよ」と女性役員の島崎さんと佐藤さん。

話し合いは ゼロベースから

各章の内容は、その都度、一からスタッフが意見を出し合い考えていきます。募集の対象を変えたり、イベントの内容を変えたり、まち恋ならではのオリジナルティを出すような心がけています。バーベキューパーテ

イーをした時は、お酒や流しそうめん、特製ピザなどの食べ物以外に、参加者の髪を無料でセットしてあげました。これはいろいろな業種の人がいる商工会ならではの試みで、参加者の多くが喜んでくれました。



女性目線の意見を出しあう佐藤恵美さん(左)と島崎ふみ子さん

苦労をこう話してくれました。「この翌年、テレビド라마から婚活ブームが起き、市内でも婚活をしてほしいという話を、よく聞いていました。でも、当の本人たちは恥ずかしいなどが先立つのか、募集しても人数がなかなか集まりませんでした。個人で参加しにくいならと、グループで募集した時期もありましたよ。また青年部は男性ばかり、女性ボランティアを募集して、女性の意見を聞いたりしました」。市や商工会の合併

により、横のつながりが希薄になったと感じ始めた時期でもあり、本業の仕事以外のつながりから学ぶ知識も多いのではと、部員はまち恋で人をつなぐことに力を入れ始めていきました。

青年部に 2人の女性が加入

それから5年、24年度商工会青年部役員に2人の女

市のPRと まち恋のブランド化 を目指して

3代目の実行委員長、藤田さんは「今回「スイーツビュッフェ」と記載したことが、ケーキだけでなく果物もあると思っていた人もいて、表記の仕方は大変難しく、今後の課題だと感じました。またアンケートにもっと話す時間が欲しいといったなどの意見もありました」と、次回に向けての反省点を胸に刻んでいました。「今後はまち恋十三豊の良いところを見つける企画と一緒にできればと思っています。また『まち恋バード』をブランド化し、『まち恋バード』を見ただけで、だれもが分かってくれるようなものを作ってPRしていきたいです」と話してくれました。

次は商工会の会員としてだけでなく、地域でも独自に人をつなぐ取り組みを行っている2人を紹介します。



3代目実行委員長
Famiconエフロード
藤田 唯希さん(29)



まち恋バード

商工会婚活応援隊
みとよカップリングパーティー

まち恋
machikoi
第11章
~2nd season~

6月1日(日)開催予定

詳細は <http://machikoi.jp> で
お知らせしていきます

暮らし広場(マルシェ)

人が動けば何かが変わる



暮らし広場代表
雑貨屋 Bouton
島崎 ふみ子さん(37)

8年前に小さな雑貨屋を始め、店の駐車場で古物市やおしゃれマーケットを始めた島崎さん。「この店がなかったら今の私はない」と言い切るほどの転機が訪れました。

市内でもマルシェを！

観音寺市で同じような店をしているメンバーから声が掛かり、当初4人で、マルシェ「まったりホリデー」を開催。思っていた以上に大盛況で、今でも継続して



一歩を踏み出すもことになった個性的な雑貨屋

始めました。自慢の野菜を安く売るといっただけでなく、自信を持って次につなげていくために、農家の人には名刺などを作ることを提案しました。

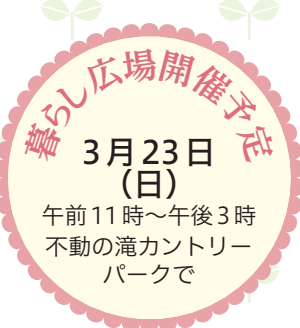
暮らし広場では参加者それぞれが得意分野を生かし、商店同士、農家と商店を繋ぎながら、皆さんに情報発信を続けていきたいと考えています。

チラシにも趣向を凝らし

「1回目の広告の打ち出しはとても大事です」と島崎さん。市内在住のデザイナー伊藤サトミさんに个性的で大勢の目を引き、手に取ってもらえるようなチラシを依頼したり、ラジオで取り上げてもらったことで、おじいさんやおばあさんも立ち寄り、年齢層の広がったイベントとなり、情報発信の大切さを再確認し



24年11月第1回の暮らし広場では農家の皆さんを中心にパン屋、とうふ屋、カフェなどいろいろなお店が集合



25年4月の山なみ芸術祭でもこたわりブースが出展され

人をつなぐのが私の役割

「私は品物を売るのではなく、みなさんが交流する場を提供したいんです。人と人をつなぐのが私の役割だと思っています」とはっきりした口調で話します。マルシェの出店者は、横のつながりの中で、県内外から大勢が参加し、四国が

一つで動いています。「都会の人は香川に行くという感覚ではなく、四国に行くという感覚で動いているようです。今後は四国が一つのブランドとして、動いていけたらいいと考えています。人が動くとか何が起こり、地域が変わる」と島崎さん。暮らし広場は三豊の活性化のための情報の場となり得ると確信しています。

財田町で毎年8月に行われている「水辺の納涼祭」。市消防団財田方面隊第5分団で、何か盛り上げられないかと考えたのが最初のきっかけという小笠原さんは消防団員の他、商工会員としても活躍していました。

これだと思い 試行錯誤を

仕事関係の人が、移動式のピザ窯を持っているのを見て、「これだ！」とひらめいたそうです。何度も何

度も足を運び、窯の作り方を聞いたり、見たり、写真に撮ったりして、寸法も測って、なんとか窯を完成させました。

皆さんに提供できるまでには、生地的配合や厚さ、焼き方などインターネットで調べては、何十回となく試行錯誤を繰り返しました。なぜ消防団がピザ？と思いましたが、取材をして納得。美味しいものが大好きな団員は料理を作り慣れており、つながるチームワー



消防団活動もピザ作りも、このチームワークがあればこそ！

香ばしい匂いに誘われて自分で焼いて食べられるピザ



24年8月1回目の参加で150枚が売れ一歩を踏み出す



財田窯焼きピザの会代表
小笠原石材工業
小笠原 巧さん(46)

野菜嫌いの子が野菜を食べた

クがそこにはありました。最初は消防団員15人で開始。今ではピザ作りでイベントに参加することに賛同してくれる仲間約30人で協力しています。仲間が仲間を呼び、人のつながりは広がっていきます。

イベントに参加する時は、窯が約200kgあるのでトラックに乗せ、現場に着くと運搬車で運びます。これに約1時間程掛かります。

初出店の時は、焼いたピザの販売でしたが、今は具を乗せたり、焼き具合を一緒に見たりと体験型に。

役割分担に責任を持つて

「野菜嫌いの子どもがこんなに野菜を食べているとお母さんが喜ぶ姿を見ると、本当に嬉しくなり、やってよかったとつくづく思いました」と小笠原さん。

財田町で行われるイベントにはもちろんのこと、みとよ商工まつりや高松で開催されたさぬきマルシェなどにも参加。日頃から役割分担を決めて、各自責任を持って取り組みます。財田をもっとみんなに知って欲



25年10月みとよ商工まつりでは、大勢の若い女性や子ども連れが、うわ～楽しい！と喜んで体験

しいという思いで、財田産の野菜や米粉などにこだわって、ピザを通して、新しいつながりが広がります。「今後声掛けができれば、仲間の都合が付き限り、出向いていきたい」と意気込みを話してくれました。



「若い人たちは馬力がありますね」

⑥ 曾根果樹園
曾根 修さん(65)

軽トラ市に参加し、みかんを詰め放題で販売しました。対面販売は生産者と消費者がつながり、会話を楽しむというのもプラスされて、いいイベントですね。

つながりが増えて、若い人に馬力が増し、攻めの姿勢が強く、頼もしく感じられますね。私もつながりから、販路拡大に結び付いたことや、いろんな道が切り拓かれたことがたくさんありました。

それぞれの努力を聞くことで、自分のオリジナルが見つけれられるはず。横のつながりを増やしながら、我慢強く努力して頑張っていってほしいですね。



grace(グレイス)
谷川 俊文さん(44)

財田町でジュエリーのデザインやリフォーム、修理などを手掛ける谷川さん。異業種交流会に参加して、

人とつながることはおもしろい！

若い人たちはつながりを増やしていると感じます。地域を思い、自らつながりを作ろうとする前向きな姿勢は、見習うところがあります。相談し合える、そんな支えが増えることはとても心強いですね。私たちも地域を守ろうという思いになりますね」

考えています」
「みんなで話すと道が切り拓ける」
県外のイベントや講習会にも参加し、多くの人たちとのつながりを広げている白川さん。以前はつながりを持つことを避けていた時期もあったようです。
「市場の単価とかゴールのないような話が多くて、集まって話することは正直好きではなかったんです。でも、県外に足を運んで、経営面などで刺激を受けたし、自分の知識のなさを痛感して、変わりました」

ね。作るだけでなく、売り方や、これからの農業をどうしていくかとか夢のある話をしていると、とても楽しいです。分からないことや迷うこともあるけど、みんな話をしていると切り拓けるような気がしますね。つながりがもたらすものは大きく、つながりが増えて、これから芽がどんどん出てくると思いますよ」

異業種交流会

つながりから何かが生まれ
つながりが次のつながりを生む

市商工会の青年部は昨年、自社をPRしたり、他社の現状やさまざまな業界動向を聞き、双方向での交流拡大を図ることを目的に、第1回の異業種交流会を開催しました。

新たな可能性の広がりを感じたと言います。
「始めに声をかけてもらったとき、私は個人経営で、社員もおらんし、参加してもなあというのが正直な気持ちでした。けど、参加してみると人とつながることはおもしろいと感じましたよ。仕事はもちろん、人を知るという意識が芽生えましたね。今は異業種とのマッチングで経営の幅が広がっています。人と接して、そのつながりから何かが生まれ、つながりが次のつながりを生んでいます。交流会で新たなビジネスが生まれる瞬間を目の当たりにしましたよ。」



軽トラ市に野菜や果物、花などの商品を積み込み、生産者が直接対面販売をする「三豊発!!さぬき軽トラ市」が25年11月、県内で初めて、高瀬町農村環境改善センター駐車場で開催されました。これは、地元の農業を盛り上げようと農家6人が実行委員会を立ち上げ、開催したものです。
28台の軽トラが集結し、約5,000人が詰めかけた軽トラ市。実行委員長を務めた白川さんにインタビューしました。

「イベントを開催するま



「イベントを開催するま

なりわいを つなぐ

若さ溢れる行動力と豊かな発想力は、三豊の産業にも注がれています。
三豊の明日を担う若い人たちが出会い、輪を広げ、新たな可能性にチャレンジしています。

軽トラ市

つながりは増えこれから芽が出てくる



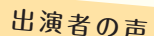
さぬき軽トラ市実行委員長
(株)三豊エコファーム代表取締役
白川 大輔さん(31)

では1年近くかかりました。これまで農家の人たちが生産はプロだけど、売り込むのは苦手意識があったんですね。けど、消費者と直接つながって、自分たちの商品がPRすること大切だと感じていました。

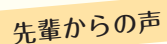
農家主体で開催する軽トラ市は全国的にも珍しく、インターネットで各地のイベントを検索したり、資料を取り寄せたりと、実行委員会の皆さんは開催直前まで準備を行っていました。「開催するだけならできるけど、それだけでは地域の活性化にも域おこしの起爆剤にもならないんですよ。今回は県内初ということもあって多くの人に足を運んでもらったけど、次回に向けて、さらなる工夫は必要だと

続けられるイベント作りをしたい



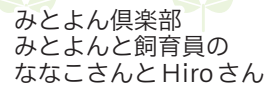


私は松岡さんからの誘いで、11月のオウルに参加しました。イたちが地域の大人と一るなど、地域の人と触ったと思います。また、知り合った人が力を合いものが生まれたらス



ベースプレーヤー
富山 利三さん(65)

一つの思いでつながった若い人たちが中心となって頑張っていて今後の活動が楽しみです。私の役目は、プロとして活動してきた経験を提供し、そのきっかけ作りをすることだと思っています。大浜の船越ハ幡宮でも友人からのオファーを受け、数年前からJAZZを演奏しています。大きな宣伝もしてこなかったのですが、口コミで情報が行き渡り市外からも人が集まってくるようになりました。これらの活動を通じ地域に新しい息吹が生まれ、結果として時代に即した発展につながればと思っています。

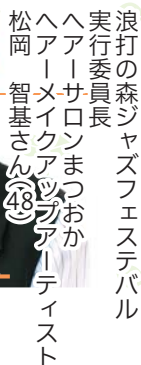


みとよのご当地キャラクタ―みとよんは市の知名度向上プロジェクト主任研究員に任命されており、イベントでは子どもたちに囲まれ、愛される存在。みとよん倶楽部は飼育員3人の平均年齢28歳で構成されています。

みとよんは動くCM

飼育員の2人に活動の様子を聞きました。「みとよんは三豊だけでなく、市外・県外のイベントに行き、多くの皆さんと触れ合っています。みとよんをきっかけに、三豊の遊ぶところや食べるものなど、三豊のこと

一人ひとりとは微力でも
若者たちがそれぞれでつ
ながって種をまく。この
種がこれからの三豊市に
大きな花を咲かせてくれ
ることでしょう…



JAZZ で地域が盛り上がれば

JAZZが三豊を知るきっかけに

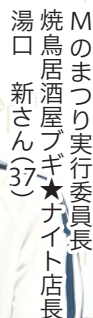
「詫間町の喫茶店でJAZZのプロやアマチュアの演奏者が集い、セツシヨンをしていたのがきっかけです。演奏できる一つの場を設けようと皆で力を合わせ、開催しました。

当日は雨にもかかわらず、8バンド約50人の奏者

感じ、『私もやってみたい』とか『また聞いてみたい』など、興味を持ってもらえたらという願いはいつも持っています。JAZZを通して人がつながり、その人を通して、他の地域ともつながり、三豊が盛り上がり、三豊が盛ります」と

Mのまつり

音楽イベントで
三豊と新たな地域をつなぐ



25年9月に第2回を開催したMのまつり。財田町の道の駅だからだの里で7組のプロミュージシャン、12組の地元ミュージシャンの演奏と11の屋台が出店し、熱い盛り上がりを見せました。これを支えたのは若い

っているように思います。25年の来場者は約250人市内に限らず、出演バンドのファンやライブ好きの人が、東京や大阪からも来てくれましたよ。開催前にも出演バンドのファンが、イベントのちらしを県外にも

地域を
つなぐ

若い力が興こす「わくわく」は、市内だけではなく、市外からも新たに出演者や来場者を呼び、三豊と他の地域を結び付け、盛り上げています。

つながりが
次のつながりを呼ぶ

力。この新しい取り組みを始めたMのまつりのスタッフには市内の若者30人が集まりました。

「三豊で音楽と食を中心

えたのが始まりです。私は高瀬町で飲食店を営んでいるのですが、そこに来てライブをしてくれているバンドや、私がずっとファンだった三宅伸治さんに依頼したところ、快く引き受けてくれました。またそれぞれの仲間のミュージシャンにも声をかけてくれて、大勢の協力でライブが開催でき

配ってくれ、三豊とまた別の地域の新たなつながりもできました。イベントに参加するために市外から来た出演者や来場者が、実際にここに滞在することで分かる三豊の良さや、新しい何かを発見して帰ってくれたらいいですね。

本当に手探りの状態での始まりでしたが、来場者からの嬉しい感想や次を期待する声を聞いたことが、スタッフ一同、やっていてなによりも嬉しかったこと「す」

この年代だからこそできたこと

「今30代ですが、若い力



という点で、この年代だからこそよかったと思うのは上の年代もまだまだパワーあふれる先輩方が多く助けてもらえましたし、下の年代にも声をかけやすく力を借りられたことですかね。このまつりに関わる人たちや子どもたちが楽しみ、また自分たちが楽しむことによって、それが地域のためになれば嬉しいですね。もっと多くの人や地域とつながり、このイベントに参加してもらうことで、Mのまつりと三豊市がもっと盛り上がり、上がって楽しくなればと、スタッフ一同考えています」

みとよん

市内外で
三豊をPR

を知ったという声が寄せられていて嬉しいですね。みとよんのパンやサブレも人気なんですよりみとよんは動くCM。何をしても押し売りではなく、そこにいるだけで三豊のPRになっていると感じます。みとよんも三豊市も県外での認知度はまだまだ。まずは、47都道府県に足跡を残すことを目標に活動していきたいと思っています。また、毎月第2土曜日は、ゆめタウン三豊でのみとよんお散歩デラムも考えています。ぜひ声をかけてくださいね」